



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携 創薬人育成スクール

アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日 時：10月21日（土）13時00分～18時15分

場 所：岐阜薬科大学 本部 第一講義室

開催世話人：岐阜薬科大学 薬化学研究室 永澤 秀子

プログラム

- 13:00 開会の言葉 岐阜薬科大学 永澤秀子
- 13:05～14:25 “ドラッグライクネス”を意識した合成展開とは
座長：菅 敏幸 日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所 化学研究所 副所長 塩崎 真 先生
創薬研究では、薬効強度はもとより、安全性、服薬簡便性向上につながるエッセンスをいかに化学構造に取り込むかが重要なポイントとなる。“ドラッグライクネス”は、分子の構造から読み取られる“医薬品らしさ”を表し、化合物の最適化のみならず、研究の初期段階、例えばリードセレクションの場面等でしばしば用いられてきた。本講演では、ドラッグライクネスを意識した合成展開とは何か、ということについて、JTにおける最新の事例を使って紹介する。
- 14:25～15:45 創薬研究における創薬化学と計算化学コラボレーション ～5-HT_{2B}, 5-HT₇ dual antagonist プロジェクト～
座長：伊藤彰近 アステラス製薬株式会社 モダリティ研究所 ストラテジックスクリーニングサイエンス研究室 主管研究員 森友 紋子 先生
創薬研究では化合物を合成する創薬化学者と分子設計を担う計算化学者が密に連携しプロジェクトを進めています。
タンパク質の構造に基づく薬剤設計（SBDD）を用いて合成方針を立案し、開発候補品を見出した「新規片頭痛予防薬としての 5-HT_{2B}, 5-HT₇ 受容体二重拮抗薬の合成と構造活性相関研究」プロジェクトの実例を紹介し、アステラス製薬における創薬研究の進め方を紹介する。
- 16:00～17:20 抗体-薬物複合体（ADC）でがんと闘う～抗 HER2 ADC 薬 DS-8201a の創製～
座長：池田 将 第一三共株式会社 バイオ・癌免疫ラボラトリー 第4グループ 副主任研究員 中田 隆 先生
抗体-薬物複合体（ADC）とは、低分子医薬と抗体を適切なリンカーを介して結合することで、強力な薬効を持つ低分子医薬を標的特異性の高い抗体を運搬役とすることで副作用を減らしながら薬効を高める次世代医薬品である。がん領域を中心として多くの臨床開発がおこなわれている。臨床開発中にある抗 HER2 ADC 薬 RDS-8201a の創製を題材として、次世代医薬品 ADC の創薬について解説する。
- 17:20 閉会の言葉 名古屋大学 創薬科学研究科 福山 透

終了後、学生中心のミキサー（17:30～18:15 まで）を行います。

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

永澤秀子（地域世話人代表、岐阜薬科大学）、菅 敏幸（静岡県立大）、中川秀彦（名古屋市立大学）、森 裕二（名城大学）、安池修之（愛知学院大学）、林 一彦（金城学院大学）、岩島 誠（鈴鹿医療科学大学）、柴田哲男（名古屋工業大学）、福山 透（名古屋大学）、池田 将（岐阜大学）